



令和2年12月10日

報道機関各位

デンタルネグレクト(子供の虫歯の放置)は
生活のゆとりがない家庭や父親のインターネット・ゲーム時間が長い家庭に多い
文部科学省スーパー食育スクール事業の結果より

富山大学地域連携推進機構地域医療保健支援部門(部門長:関根道和教授)は、高岡市内の5つの小学校に通う1年生から6年生までの全児童2109名を対象として、平成28年3月に社会経済環境や親子の生活習慣などに関するアンケート調査を実施し、「虫歯を指摘されたが通院していない子供(虫歯が放置されている子供)」の特徴に関する新たな知見が得られましたので公表します。

アンケート調査は、平成26年度に富山県教育委員会と連携して実施された文部科学省スーパー食育スクール事業の追加調査です。回収数は1987名(回収率:94.2%)、有効回答数は1655名でした。大学院生(当時、現・明海大学)の浅香有希子歯科医師、山田正明助教らが分析しました。

その結果、虫歯が放置されている子供は、対象者全体の3.2%でした。また、虫歯が放置されている子供の特徴として、「生活のゆとりがない」、「父親の平日の家でのインターネット・ゲーム利用時間が2時間以上」、「習い事をしていない」、「高学年」、といった特徴がありました。

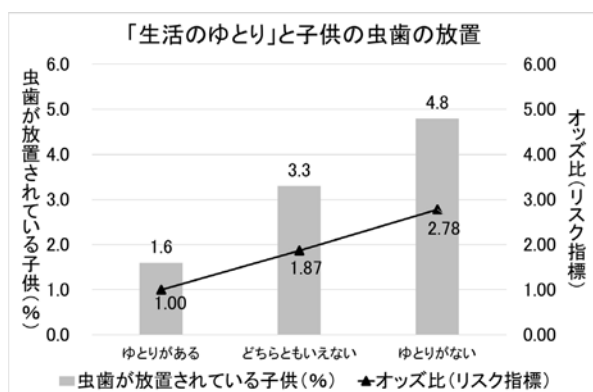
近年、虫歯のある子供の割合は減少傾向にあります。しかし、虫歯がない子供と極端に虫歯が多い子供に2極化していることや、虫歯などの口腔内の異常が放置される「デンタルネグレクト」が問題となっています。医療費助成制度等により子供の医療費は実質的に無料の場合が多いにもかかわらず、子どもに虫歯があっても医療機関を受診しない要因があることが今回明らかとなりました。子どもの虫歯は、痛みだけではなく、睡眠不足や学力低下につながるということが知られています。また、栄養不良を介して成長や発達にも影響があります。親への情報提供を含めた子供の虫歯の予防や治療の啓発や、未受診者のフォローアップなどの仕組みづくりが必要と考えられます。

調査結果の詳細は、11月25日に国際誌 Environmental Health and Preventive Medicine に公開されました。子供の虫歯のリスク要因についての研究は多数ありますが、子供の虫歯が放置される要因に注目した研究は少なく、貴重なデータと考えています。

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学地域連携推進機構
地域医療保健支援部門長 関根道和
930-0194 富山市杉谷 2630
TEL 076-434-7270 FAX 076-434-5022
E-mail: sekine@med.u-toyama.ac.jp

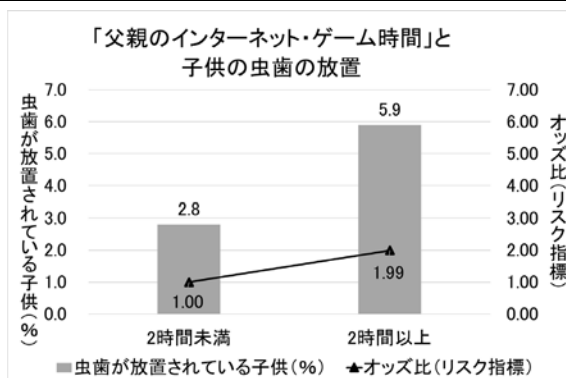
(図1) 虫歯が放置されている子供は、「生活のゆとりがない」家庭に多い



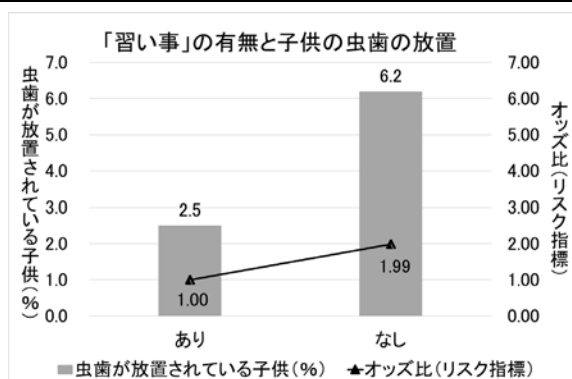
- 「生活のゆとりがある」と答えた家庭で虫歯が放置されている子供の割合は 1.6%であったのに対して、「ゆとりがない」では 4.8%と高くなっていました。
- 年齢や性別等を考慮した分析の結果、「生活のゆとりがある」と答えた家庭の子供を基準としたオッズ比は、「ゆとりがない」で 2.78 でした。

(図2) 虫歯が放置されている子供は、父のインターネット・ゲーム時間が長い家庭に多い

- 「父親のインターネット・ゲーム時間が 2 時間未満(平日)」の子供の虫歯が放置されている割合は 2.8%であったのに対して、「2 時間以上」の子供では 5.9%でした。
- 年齢や性別等を考慮した分析の結果、「2 時間未満」の子供を基準とした虫歯の放置に対するオッズ比は、「2 時間以上」で 1.99 でした。



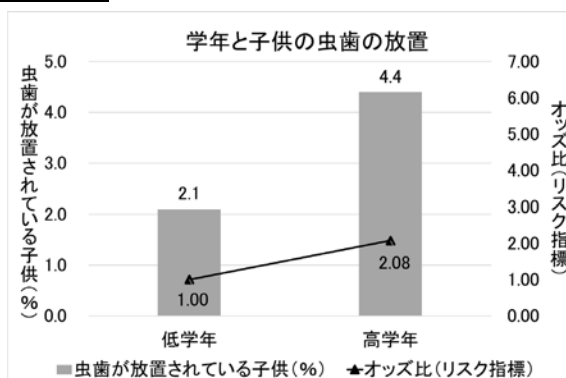
(図3) 虫歯が放置されている子供は、習い事がない傾向



- 子供の「習い事あり」の家庭における虫歯が放置されている子供の割合が 2.5%であったのに対して、「習い事なし」の家庭の子供では 6.2%と高くなっていました。
- 年齢や性別等を考慮した分析の結果、「習い事あり」の子供を基準とした未治療に対するオッズ比は、「習い事なし」で 1.99 でした。

(図4) 虫歯が放置されている子供は、高学年に多い

- 低学年(1-3 年生)の子供の虫歯が放置されている割合は 2.1%であったのに対して、高学年(4-6 年生)の子供では 4.4%でした。
- 年齢や性別等を考慮した分析の結果、低学年の子供を基準とした虫歯の放置に対するオッズ比は、高学年で 2.08 でした。



子供の虫歯の動向

近年、子供の虫歯の割合は、予防歯科の発達や保護者への啓発活動等により減少傾向にあります。また、国民皆保険制度に加えて医療費助成制度による子供の医療費の実質的な無料化等の施策により、保健や医療へのアクセスが容易になったことも大きな役割を果たしていると考えられます。

しかし、その一方で、虫歯がない子供と極端に虫歯が多い子供に2極化していることや、虫歯などの口腔内の異常が放置される「デンタルネグレクト」が、近年、問題となっています。そこで、今回の研究は、虫歯が放置されている子供の背景要因を明らかにすることが目的で実施されました。

虫歯の放置の背景要因は何か

今回の研究から、子供自身の要因よりも、家庭の要因が強く関連していることが分かりました。

子供の虫歯の放置と最も強い関連を示したのは、「生活のゆとりがない」ことでした。海外では、医療保険制度の違いもあって、経済的に余裕のない家庭にデンタルネグレクトが多いことは報告されています。しかし、日本では経済的理由だけでは説明がつかず、「時間的な余裕がない」や「子供の健康への関心が低い」などの経済的な理由以外の要因もあると考えられます。今回、「習い事をしていない」子供の虫歯は放置される傾向がありましたが、習い事は子供の生活習慣である一方、子供の教育機会に関する指標であり、家庭の経済力の影響を受けることが知られています。そうしたことから「生活のゆとり」とともに関連性が出たものと考えられます。

今回、父母の生活習慣が良くない家庭で子供の虫歯が放置される傾向がありましたが、とくに統計学的に強い関連性は「父親の平日の家でのインターネット・ゲーム利用時間が2時間以上」の場合に認められました。父親のインターネット・ゲーム利用時間が長いことは、子供への無関心との関連が報告されており、家庭での会話が減って子供の健康への気づきが遅くなることが考えられます。

子供の虫歯の放置はなぜ問題か

子供の虫歯は、痛みによる集中力の低下や学力の低下につながることで知られています。また生活習慣の点からは、栄養不良や睡眠不足につながることで知られています。栄養不良があると、子供の成長や発達にも悪影響があります。また、精神的な影響として、人前で笑えなくなるといった自己肯定感の低下と関連すると報告されています。

今回、「高学年」の子供の虫歯は放置される傾向がありましたが、その背景には、乳歯の虫歯の場合は、永久歯に生え変わることで治療する必要がないと考えているなどの理由があるのかもしれませんが、しかしながら、乳歯の虫歯を放置すると永久歯の形成不全のリスクが高まることや、乳歯で虫歯が多数ある子供は永久歯でも虫歯が多い傾向があることが知られています。

今後の方向性として、親への情報提供を含めた子供の虫歯の予防や治療の啓発や、未受診者のフォローアップなどの仕組みづくりが必要と考えられます。

出典:

Asaka Y, Sekine M, Yamada M, Tatsuse T. Associations of socioeconomic status and lifestyle factors with dental neglect of elementary school children: the MEXT Super Shokuiku School Project. Environmental Health and Preventive Medicine

<https://environhealthprevmed.biomedcentral.com/articles/10.1186/s12199-020-00916-y>